

抗ウイルス感染症研究のフロンティア

—横断的研究・開発の可能性

オーガナイザー

- 岩谷靖雅 (国立病院名古屋医療七臨床研セ)
- 三隅将吾 (熊大院薬グローバル天然物科学研究セ)
- 玉村啓和 (東京医歯大生材研)

全世界に急速に拡大した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のような新規なウイルス感染症に即応すべき局面では、一からの治療薬・ワクチン開発には膨大な時間がかかり、迅速な対応できない。

そのため、日頃からドラッグ・リポジショニングなどを可能とする横断的な研究基盤の整備は欠かせない。しかし、ウイルス感染症分野では、ウイルス種の垣根を超えた研究開発が少なかつたため、出遅れた感がある。

COVID-19だけにとどまらず、

将来起こり得る新興ウイルス感染症に備えるためにも、今ウイルス種の垣根を超え、共通したウイルス複製の阻害原理や手法を再考すべきである。

実は、昨年(2020)の日本薬学会第140年会の抗ウイルス感染症研究のフロンティアのシンポジウムでは、COVID-19を予測するかのよう、こうした趣旨のシンポジウムを実施する予定であった。

今回、リベンジも兼ね、「異なるウイルスに対して類似した分子標的を捉え、横断的に治療薬・ワクチン開発」を見つめ直すきっかけを設けたいと本シンポジウムを再企画した。

ぜひ、様々な視点で抗ウイルス治療薬・ワクチンの開発・研究を議論していただけたら幸いである。

(岩谷靖雅)

保険薬局が目指す薬物治療の実践:

薬局薬剤師の機能と専門性

オーガナイザー

- 吉山友二 (北里大薬)
- 新井茂昭 (安田女大薬)

世界に先駆けて超高齢社会を迎えたわが国において、医療は従来型の病院完結型医療から地域完結型医療へと移行している。

近年、保険薬局は「患者のための薬局ビジョン」において、地域のかかりつけ薬局、健康サポート薬局、高度薬学管理機能を持つ薬局など、新たな役割を求められており、先の医薬品医療機器等法改正においても「専門医療機関連携薬局・地域連携薬局」という認定制度が示された。

保険薬局の薬剤師は、患者を専任して担当する「かかりつけ薬剤師」になることで、検査値を活用し腎機能に応じた用量設定の支援や、患者個々に合った服用方法の提案など、臨床薬学

の知識を応用して安全性・有効性を担保した薬物治療の個別化や最適化への貢献を目指している。

本シンポジウムでは、高度薬学管理の実践例や、期待される薬剤師の役割について、現場で活躍されているシンポジストの声を傾けることとした。

まず、地域包括ケアシステムの中の地域連携薬局の専門性を浮き彫りにしてシンポジウムを進める。日米両国における医療の最前線で展開される薬物療法(薬学的管理)の実施を考えると大変有意義である。

国民が期待する薬剤師に求められることに耳を傾け、地域医療における薬剤師の役割を討論する。本シンポジウムでの講演内容を、保険薬局における薬物治療の実践に応用することが薬学関係者の腕の見せどころと確信する。

(吉山友二)

大学院生・学部生シンポジウム

核酸医薬・遺伝子治療薬創出に

向けたDDS技術開発

—体内動態・細胞内動態制御から治療応用まで

オーガナイザー

- 木村誠悟 (北大院薬)
- 加藤直也 (長崎大院医歯薬)

核酸医薬・遺伝子治療薬は、iPS細胞をはじめとする再生医療や3Dプリンタ創薬など医薬品の概念が急速に拡張する近年、低分子医薬・抗体医薬に次ぐ革新的医薬品として期待されている。

既にスピララザ、オンパットロ、コラジェンなどが承認されており、今日では新型コロナウイルス感染症に対するワクチンとしてmRNA医薬が市場に出回り始めている。

しかし、これらの製剤はいずれも、

核酸および遺伝子単体では動態制御が困難であったという課題を解決するDDS技術を基盤として開発されたものである。

本シンポジウムでは、次世代の革新的医薬品としてこれら治療薬に続いて創出するために基盤となる脂質ナノ粒子、高分子ミセル、コンジュゲート等の種々の核酸・遺伝子送達に向けた今後を担う新たなDDS技術がいかにして生体内障壁を克服し、治療へと応用されるのかを紹介すると共に、今後のDDS製剤開発に関する将来展望について議論したい。

(木村誠悟、加藤直也)

薬事レギュレーションと創薬イノベーションのハーモナイゼーション

—医療イノベーション戦略の新機軸

オーガナイザー

- 日下部哲也 (医薬品医療機器総合機構)
- 近藤昌夫 (阪大院薬)

弁証法の「対立物の相互浸透の法則」では、物事は対立物の相互浸透により発展すると言われている。規制緩和という言葉に代表されるように、往々にしてレギュレーション(規制)はイノベーションを阻む言葉として取り上げられることが多いが、医薬品等の開発でもレギュレーションは単にイノベーションを阻む存在なのだろうか。

医薬品等は、品質、有効性・安全性を確保するため、国際的に規制調和した厳格な薬事レギュレーションを遵守した上で開発することが求められている。製品の流通後も品質の維持・向上

を図り、適正使用を確保すると共に、偽造薬や不良品の市場迷入を防止等するため、様々なレギュレーションが導入されている。

このようなレギュレーションは厳格である一方、開発の障害となるのではなく、真のイノベーションを達成するために、イノベーションの目的に応じて現実的で適正なものに調和していることが不可欠である。

本シンポジウムでは、医療イノベーション戦略の新機軸をテーマに、産学官のシンポジストから薬事レギュレーションと創薬イノベーションに関する最新的话题をご提供いただき、レギュレーションとイノベーションの調和を通じた医療イノベーションに関する議論を深めたい。

(近藤昌夫)

祝 日本薬学会 第141年会

(順不同)

 <p>奥羽大学 薬学部</p> <p>〒963-8611 郡山市富田町三角堂三一 電話 〇二四(九三二)八九三一</p>	 <p>東北医科薬科大学</p> <p>〒981-8558 仙台市青葉区小松島四一 電話 〇二二(二三四)四一八一</p>	 <p>関西医薬品協会</p> <p>〒541-0044 大阪市中央区伏見町二一四一 電話 〇六(六二三一)九一九一</p>	 <p>PMRJ 財団法人 医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団</p> <p>Pharmaceutical and Medical Device Regulatory Science Society of Japan</p> <p>〒150-0002 東京都渋谷区渋谷二一五(長井記念館) 電話 〇三(三四〇〇)五三三八 FAX 〇三(三四〇〇)三一五八</p>	<p>一般社団法人 広島県病院薬剤師会</p> <p>〒734-8551 広島市南区霞一 電話 〇八二(二五七)五五七一</p>	<p>一般社団法人 愛知県病院薬剤師会</p> <p>〒460-0002 名古屋市中区丸の内三二(愛知県薬剤師会館三階) 電話 〇五二(七四四)二六七四</p>	<p>一般社団法人 茨城県病院薬剤師会</p> <p>〒310-0852 水戸市笠原町九七八一 電話 〇二九(三〇三)五九五一</p>	 <p>一般社団法人 日本病院薬剤師会</p> <p>〒150-0002 東京都渋谷区渋谷二一五(長井記念館) 電話 〇三(三四〇六)五〇八三 FAX 〇三(三七九七)五三〇三</p>
---	---	--	--	---	---	--	--

当ファイルの著作権は(株)薬事日報社またはコンテンツ提供者に帰属します。当ファイル(印刷物含む)の利用は私的利用の範囲内に限られ、それ以外の無断複製・無断転載・無断引用はご遠慮ください。当ファイル(印刷物含む)を社内資料、営業資料などでご利用される場合はご相談ください。